

# 「地上最大の怪獣治虫」展

プレスリリース  
2012年4月27日

世田谷文学館 2012.4.28<sup>SAT</sup>-7.1<sup>SUN</sup>!



1: 『鉄腕アトム』  
1965年5月1日発行  
カッパコミクス「鉄腕アトム」17表紙  
アトムと戦っているロボットは、「地上最大のロボット」に登場するブルートウ

本展広報に関するお問い合わせ先  
世田谷文学館 学芸部  
担当：尾崎・瀬川  
〒157-0062  
東京都世田谷区南烏山 1-10-10  
TEL 03-5374-9111  
FAX 03-5374-9120



## はじめに

「地上最大の手塚治虫」展のタイトルについて

『鉄腕アトム』の中でも人気の高いエピソード「地上最大のロボット」。読者の間で愛されているこのエピソードの題名にあやかり、ずばり、「地上最大の手塚治虫」に〈読者〉として挑もう！という思いを込めて名付けました。



## 見どころ

1. 『ジャングル大帝』『鉄腕アトム』『リボンの騎士』『ブラック・ジャック』etc. みんなの大好きなキャラクターが描かれた作品原画が、**本展示会場にて一堂**に会します。細部にこだわり描き込まれた迫力ある原画の数々をご堪能ください。
2. 手塚治虫がもたらした「**ストーリーマンガ**」とは何かを、本展では1話まるごと原画で読むことで体験していただきます。（どの作品、エピソードかは、会場にて。お楽しみに！）
3. 手塚マンガを読む楽しみのひとつ、「**スターシステム**」。手塚はキャラクターを劇団員と考え、さまざまな作品に役柄を与え登場させていました。本展ではスターの詳細データをまとめた自筆の「スター名鑑」をスライドショーで全ページご覧いただけます。あのスターがこんな役で出演している！と、きっと新しい発見ができるでしょう。
4. 自筆原画・掲載誌・愛用品・関連資料等、展示資料 約 350 点で構成します。



2：手塚治虫



3：昆虫手帳“INSECTA” MEMO RAND Book Two  
1943年4月1日～7月18日

野山で昆虫採集をする時に持ち歩いていた手帳。



## 企画趣旨

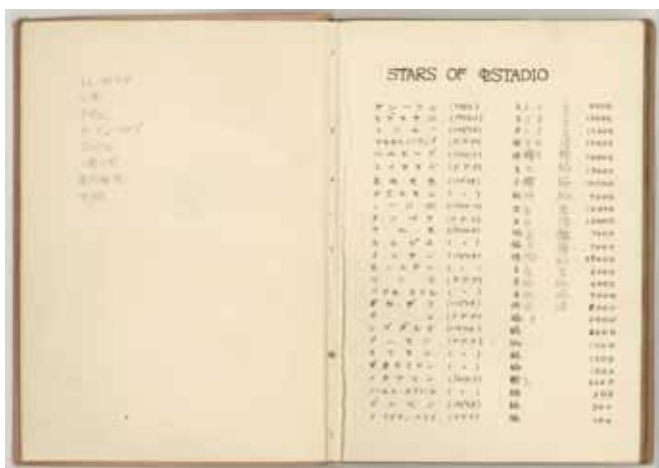
手塚治虫の読者である喜びを力に！

現代日本に生まれた私たちは、手塚治虫を知らないでいることの方が難しいのかもしれませんが。たとえば夏目漱石の名前をほとんどの日本人が知っているのと同じように。

しかし私たちは、果たして本当に手塚作品を読んできたのでしょうか。手塚治虫がその作品を伝えたいと信ずるに足る〈読者〉になっているのでしょうか。「マンガの神様」とも呼ばれた手塚治虫に、〈読者〉はどう向きあうのか。本展ではこの問いに挑みます。

手塚治虫（本名：治 1928—1989）は、大阪府に生まれ、兵庫県宝塚市で育ちました。昆虫採集に熱中し、母の影響で宝塚歌劇や音楽、文学にも親しんだ少年は、得意な絵をいかしてマンガを描き始めます。大阪大学附属医学専門学校に入学し医学を修めながらも、昭和 21（1946）年に「マアチャンの日記帳」の連載でデビューして以降、平成元（1989）年、60 歳で亡くなるまでの間、ひたすらマンガを描き続けました。『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』『ブラック・ジャック』『火の鳥』…… その数約 700 点（原稿枚数にして約 15 万枚！）。手塚はマンガに、〈自然と科学〉〈生と死〉〈愛と憎しみ〉〈人間と宇宙〉〈戦争と平和〉などありとあらゆるテーマ、ありとあらゆる手法で挑み続けました。手塚治虫というひとりのマンガ家が、人生のすべてをかけた驚異的な仕事により、私たちは現在、手塚マンガを読む喜びを手にすることができますのです。

世田谷文学館は、手塚作品とはこれからの時代を生き抜く際に手元に置くべき〈文学〉であると考えています。人生の危機や困難に際したときに、いつもそばに寄り添い、立ち返ることのできる拠り所のような文学＝スタンダード文学です。本展ではぜひ、手塚治虫の〈読者〉であることの喜びをあらためて体験していただきたいと願っています。手塚治虫が、作品を受け継いでほしいと未来を託した〈読者〉たちの、これからを生きる力につながるものになれば幸いです。



4



5

4・5：「スター名鑑」肉筆本（1950年頃）

宝塚歌劇に親しんだ手塚は、キャラクターを劇団員と考え、さまざまな作品に役柄を与えて登場させた。一覧表にはキャラクターの代表作や出演料も書き込まれている。



6：『ブラック・ジャック』「二つの愛」自筆原稿より「週刊少年チャンピオン」1974年11月18日号掲載

1話完結型ストーリーの手法は、あたかも短編小説集を読む味わいがある。

「二つの愛」には、『リボンの騎士』のサファイアが、登場人物のひとりとして出演。



## イベント

### 1 記念トーク「清水さんに聴け！手塚治虫の現場」

5月20日(日)14時～

出演：清水義裕(株式会社手塚プロダクション著作権事務局局長)

参加費：1000円(観覧券つき) / 当日先着150名

### 2 アニメ映画上映会

毎回14時～ 参加費：無料 / 当日先着150名

① 4月28日(土)

「鉄腕アトム」第1話 +  
「W3(ワンダースリー)」第1話 +  
「ジャングル大帝」第1話 (計約90分)

② 5月5日(土)

「リボンの騎士」第1話 +  
「リボンの騎士」最終話 +  
「どろろ」第1話 (計約90分)

③ 5月12日(土)

「ふしぎなメルモ」第1話 +  
「悟空の大冒険」第1話 +  
「三つ目がとおる」第1話 (計約90分)

④ 5月19日(土)

「100万年地球の旅 バンダーブック」  
(94分)

⑤ 5月26日(土)

「ある街角の物語」(約40分) +  
「展覧会の絵」(約40分) +  
「森の伝説 PART-1」(約30分)

⑥ 6月2日(土)

「鉄腕アトム」史上最大のロボット  
(前後2話) + 最終話 (計約90分)

⑦ 6月9日(土)

「ぼくの孫悟空」(95分)

⑧ 7月1日(日)

アンコール上映  
「鉄腕アトム」第1話 +  
「W3(ワンダースリー)」第1話 +  
「ジャングル大帝」第1話 (計約90分)



7：北杜夫所蔵の『COM』  
手塚マンガを愛し、交友も深かった作家が  
愛読していた雑誌。『火の鳥』の連載誌。



8：『鉄腕アトム』  
1956年6月1日発行 光文社「鉄腕アトム」第一巻 表紙  
昭和27(1952)年に雑誌「少年」に連載が始まるとたちまち大人気に。人造ロボットである哀しみを背負ったヒーローの成長物語。

### 3 ワークショップ「マンガ・アシスタント体験」「ソーマトロープ体験」

5月の毎週土曜日 5日・12日・19日・26日 11時～16時（申込不要・随時受付）

協力：株式会社 手塚プロダクション

参加費：1回 100円



マンガ・アシスタント体験

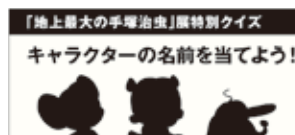
会場：トーク・アニメ上映会は1階文学サロン（ワークショップは2階講義室）

参加方法：講演会・アニメ上映会は当日先着150人 各回30分前受付・開場



#### 特別クイズ

本展チラシに登場しているキャラクターの名前を当ててください。解答用紙は展覧会場で配布します。会期中、全問正解した方にはオリジナル・グッズをプレゼント！（詳しくは会場で！）



※プレゼントはなくなり次第終了します



本展チラシ（表面）画像



## 開催概要

展覧会名	「地上最大の手塚治虫」展
会期	平成 24 (2012) 年 4 月 28 日 (土) ~ 7 月 1 日 (日)
会場	世田谷文学館
開館時間	午前 10 時 ~ 午後 6 時 展覧会入場、ミュージアムショップは 17 時 30 分まで
休館日	毎週月曜日 ただし 4 月 30 日は開館、翌 5 月 1 日休館
観覧料	一般 800 円 (640 円)、高大生 600 円 (480 円)、小中生無料 65 歳以上・障害者手帳をお持ちの方 400 円 (320 円) ※( ) 内は 20 名以上の団体割引 6 月 2 日 (土) は無料
交通案内	京王線：芦花公園駅南口から徒歩 5 分 小田急線：千歳船橋駅から京王バス (歳 23 系統「千歳烏山駅」行) 「芦花恒春園」下車徒歩 5 分
主催	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
特別協力	株式会社 手塚プロダクション
協力	宝塚市立手塚治虫記念館 / 秋田書店 / 講談社
助成	公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 芸術文化振興基金
後援	世田谷区、世田谷区教育委員会



公益財団法人 せたがや文化財団

### 世田谷文学館

〒157-0062 世田谷区南烏山 1-10-10 TEL03(5374)9111 FAX03(5374)9120

ホームページ <http://www.setabun.or.jp/>

#### 次回企画展

宮崎駿が選んだ 50 冊の直筆推薦文展 7 月 21 日 (土) ~ 9 月 17 日 (月・祝)

# 「地上最大の手塚治虫」展 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 尾崎・瀬川行

FAX 03-5374-9120

展覧会広報用として画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、FAXにてお申し込みください。EメールにてJPGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

※読者・視聴者プレゼント用に招待券をご用意しています。ご希望の場合は、あわせてお申し込みください。

## 広報用画像貸出条件

○画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。

○画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。

○画像データは、ご使用后必ず消去してください。

○画像データを第三者に渡すことを禁じます。

○インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後は必ず削除してください。

○画像には「©手塚プロダクション」のクレジット表記をお入れ下さい。

雑誌名・番組名・WEBサイト名

---

媒体種別

新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト

---

発売・放送・更新予定日

---

御社名

---

御担当者名

---

御住所

---

Eメールアドレス

---

電話番号

FAX 番号

---

画像(表紙～p.4に掲載の8点の画像の内、ご希望の画像番号に印をつけてください)

1 『鉄腕アトム』1965年5月1日発行 カッパコミクス「鉄腕アトム」17表紙

2 手塚治虫

3 昆虫手帳“INSECTA”MEMO RAND Book Two 1943年4月1日～7月18日

4 「スター名鑑」肉筆本 1950年頃

5 「スター名鑑」肉筆本 1950年頃

6 『ブラック・ジャック』「二つの愛」より「週刊少年チャンピオン」1974年11月18日号掲載

7 北杜夫所蔵の『COM』

8 『鉄腕アトム』1956年6月1日発行 光文社「鉄腕アトム」第一巻 表紙

プレゼント用招待券のご希望(ご希望の場合は印をつけてください)

5組10名様分 10組20名様分